

先月から子ども達の熱中症を予防するため、「運動時や屋外」に限定してマスクを外す学校が増えつつあるが、「屋内」ではマスクの着用が原則である。子ども達のマスクや黙食、ワクチンなどの感染予防対策は、今後も必要なのだろうか？当初は「未知のウイルス」と恐れられた新型コロナも、この2年間に世界中で研究が進み「既知のウイルス」になりつつあり、様々なデータも出揃ってきた。その研究結果や厚生労働省のホームページなどに掲載されている最新データを基にした分析と見解を、専門家（井上正康 大阪市立大学名誉教授）に聞いた。

厚労省ホームページなどから考えよう

# 子どもの屋内マスクとワクチン、今後も必要？

## 新型コロナ感染死の平均年齢は82.2歳\*

子どものマスクやワクチンを始め、これまでに行ってきた様々な感染予防は、今後も必要なのだろうか？

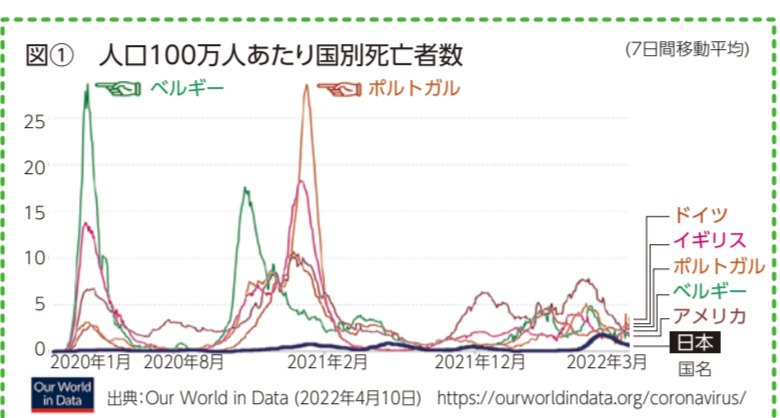
当初から一貫した見解を示し続けてきた井上正康教授は、次のように語る。「欧米諸国では被害が大きかった新型コロナも、図①のように日本では小さな被害で済んでいます。被害の度合いに大きな差が生まれたのは、日本人が病原性の低い初期の新型コロナ株に早期に感染していたことや、免疫の特性が民族によって異なることに起因しています。こ

また国内では健康な子どもと重度の基礎疾患のない子どもや若者が新型コロナに感染してもほとんど重症化していないし死亡もしていない(図②)。そして新型コロナで亡くなった人の平均年齢は意外なほど高く、82.2歳(東京都発表)である。※全国(東京発表)の男性の平均寿命は81.6歳(2020年)。

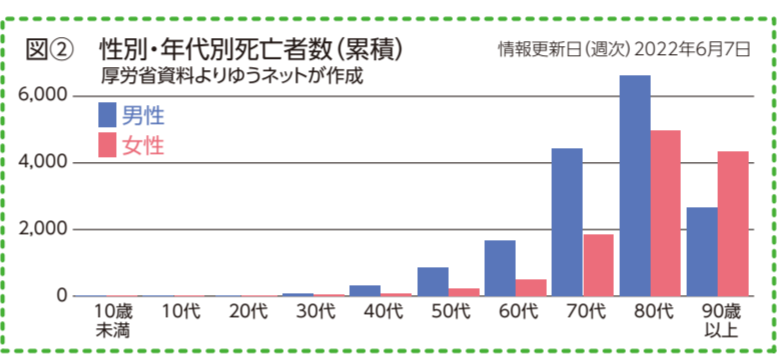
また国内では健康な子どもと重度の基礎疾患のない子どもや若者が新型コロナに感染してもほとんど重症化していないし死亡もしていない(図②)。そして新型コロナで亡くなった人の平均年齢は意外なほど高く、82.2歳(東京都発表)である。※全国(東京発表)の男性の平均寿命は81.6歳(2020年)。

また国内では健康な子どもと重度の基礎疾患のない子どもや若者が新型コロナに感染してもほとんど重症化していないし死亡もしていない(図②)。そして新型コロナで亡くなった人の平均年齢は意外なほど高く、82.2歳(東京都発表)である。※全国(東京発表)の男性の平均寿命は81.6歳(2020年)。

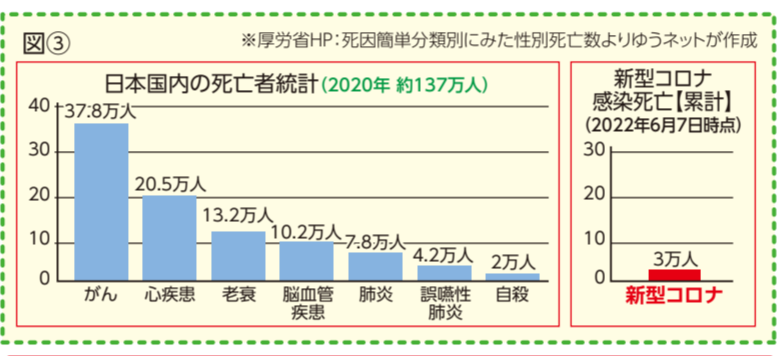
また国内では健康な子どもと重度の基礎疾患のない子どもや若者が新型コロナに感染してもほとんど重症化していないし死亡もしていない(図②)。そして新型コロナで亡くなった人の平均年齢は意外なほど高く、82.2歳(東京都発表)である。※全国(東京発表)の男性の平均寿命は81.6歳(2020年)。



図① 人口100万人あたり国別死亡者数 (7日間移動平均) 出典: Our World in Data (2022年4月10日) https://ourworldindata.org/coronavirus/



図② 性別・年代別死亡者数(累積) 情報更新日(週次) 2022年6月7日 厚労省資料よりゆうネットが作成



図③ 日本国内の死亡者統計(2020年 約137万人) 新型コロナウイルス(2022年6月7日時点) 厚労省HP: 死因簡単分類別にみた性別別死亡者数よりゆうネットが作成

## マスクをしていても感染してしまう理由

コロナ禍以降、私たちはマスクやアクリル板などによりウイルスを徹底的に避けるようになったが、井上正康教授は次のように指摘する。「そもそもウイルスは、空気、水、食物、家の中や生活空間

の至る所に存在しています。その大半は人体に無害であり、私たちの体内にも無数のウイルスが共生しています。また、ウイルスは極微サイズ(1〜10万分の1)のため、マスクと顔との

隙間などを簡単にすり抜けてしまいます。病院や介護施設ではマスクの着用率がほぼ100%ですが、クラスターが発生しています。どんなにマスクや消毒等で感染予防しても感染する時はしてしまいます。人はウイルスと共生して生きていくしかないのです。」

ゼロウイルス(無菌) 隔離、自粛、まん防、三密回避、人流制限、マスク、ステイホーム、ソーシャルディスタンス、ロックダウンなど。この方法でバリアを張れば大丈夫のはず... ウイルス近づいてくるな!

WITHウイルス(共存) 免疫力があるから大丈夫! ウイルスと共生して生きていくしかないのです。」

## 給食中の「黙食」いつまで？

日本人にとっての新型コロナの被害は、上の図①③で示した通りだった。しかし現在、新型コロナは指定感染症2類(結核・SARSと同)以上に扱われている。そのためPCR検査やひとたび「陽性」と判定されると、子どもの学校が「休校」になったり、同僚が「濃厚接触者」として扱われたりして、周囲に迷惑を掛けてしまう。日本では新型コロナそのものよりも、自分自身が「世間の迷惑者」になってしまふことを恐れている人が多いのかもしれない。

この分類が2類から5類相当(季節性インフルエンザと同)へ格下げされれば、この問題は解消され、子どもたちにも必要なくなる。また、近所の病院で普通に診察を受けることができるようになる。医療現場も防ぐことができる。3年前を思い出ししてほしい。当時、私たちは「感染」という言葉を今ほど頻りに使わなかった。細菌やウイルスに感染しても特に症状がない、健康な状態(無症候性感染)であり、たとえ症状が出ても重症化しない、別段騒ぎ立てることもなかった。仮に相手が孫から風邪をつづされて亡くなったとしてもそれは「寿命」として受け入れていたはずであり、風邪をつづ

これに関して、井上正康教授は「子どもはじやれあつて遊び、ワイワイ喋りながら給食を食べ、様々な細菌やウイルスと触れ合いながら免疫力を鍛えていきます。この時期は過度な感染によって強い身体を作る大切な時期です。ところが今、子どもたちは消毒や黙食などの予防対策によって免疫力を鍛える機会を失っています。これでは子どもたちの免疫力が十分に鍛えられず、普通の風邪を引いただけでも重症化する可能性が高くなってしまいます。」と警鐘を鳴らし続けている。

## 教えて! 井上先生

マスクで気を付けることは何かありますか？

子どもが日頃から他人の表情を見て育つことは、脳と心の発達に欠かせません。また、マスクで口元を隠し合うと、「笑顔」でのコミュニケーションができません。人格を形作る大切な時期にマスクによって表情を隠し合っているのは、喜怒哀楽の感情を学び、感受性を豊かにする訓練が十分にできず、相手の感情を理解する力が十分に育めない可能性があります。子ども達は、一日の大半を過ごす学校や保育園で、先生や友達の表情を見ることのできない生活を2年以上も続けてきてしまいました。このことが今後どのような影響を及ぼすのかは一切分かりません。心の成長に取り返しのつかない影響が及んでいる可能性も想定し、子ども達のマスクを一刻も早く外してあげることが大切だと考えます。



プロフィール 井上正康 大阪市立大学名誉教授(分子病理学・医学博士) 感染症学、病理解剖学、分子病理学など幅広い医学知識から、俯瞰的に「新型コロナとワクチン」を分析。当初から一貫した見解を示し続け、新型コロナワクチンに関する著書やテレビ出演も多数。4月5日に、衆参の国会議員を対象に「新型コロナとワクチン」に関する勉強会を国会内で開催している。

ご支援ありがとうございました 累計寄付金額 293,299,490円 (2021年11月30日~2022年6月17日) 累計60紙(発行部数2712万部)に掲載 必見! 5,000名超の賛同コメントは下記よりご覧ください。 ホームページには、「本広告の内容を分かりやすく解説した動画」を掲載。またダウンロードも無料でご利用頂けますので、ぜひご利用ください。 本広告に書ききれなかった最新情報も多数掲載! https://jccovid.net/ 二次元コードで簡単検索